

## 人や社会と共生するシステムを実現するネットワークソフトウェア 論文特集の発行にあたって

人や社会と共生するシステムを実現するネットワークソフトウェア  
論文特集編集委員会

委員長 水野 修



本年の3月から、東京の地下鉄では、ほぼ全線で携帯電話が使用できるようになった。地下鉄の中で通話を行うことはマナー違反であることには変わりないため、これはもちろんスマートフォンを主流とするデータアクセスの利便性向上のためである。

そう思って車内に目を向けてみると、数多くの人がスマートフォンやタブレットPCを操作している。スタンドアロンで動作するゲームを楽しんでいる人もいるが、Webの情報や、メール、Twitter、LINEなどの文字による通信、電子書籍や音楽などのネットワークで配信されるコンテンツ、あるいはソーシャルゲームなどを利用している。これらは、ネットワークとソフトウェアにより提供されるシステムが人や社会と共生した姿の一つであろう。

この原稿を書いているときに、淡路島で大きな地震があった。このような災害があると、各通信キャリアは緊急地震速報のアラームを発報し、災害伝言版を立ち上げる。これもまた、人々や社会から共生を期待し要求されているネットワークソフトウェアのシステムといえるだろう。

このようなシステムは、社会的にも技術的にも多くの課題を克服して築き上げられてきた。また、将来のシステム実現に向け、萌芽的なアイデアの提案や実験・シミュレーションも試行されている。いずれの場合でも、多くの議論を重ねることが成功へつながると考えられる。

議論のための場として、ネットワークソフトウェア時限研究専門委員会が主催する、「ネットワークソフトウェア研究会」がある。ここでは、萌芽的なアイデアから運用上の問題についてまで、議論の時間を多く割いて活発な研究検討がなされてきた。なお、2012年

度の活動をもって、ネットワークソフトウェア時限研究専門委員会は20年間の活動にピリオドを打つが、「ネットワークソフトウェア研究会」は第2種研究会として継続して実施することが決まっている。

一方、まとまった研究成果については、論文誌を通じ多くの研究者、技術者間で共有し展開することが重要である。そこで、ネットワークソフトウェア時限研究専門委員会では、定期的に論文特集を企画し、研究成果の共有及び展開に助力してきた。

本特集では「人や社会と共生するシステムを実現するネットワークソフトウェア技術」をテーマとし、論文を募集した。投稿された論文は4編あり、専門分野の査読委員による厳正な査読と、編集委員によるじっくりと時間をかけ議論した結果、2編を採録した。

詳細は各編を読んで頂くこととして、これらの研究成果が、人や社会と共生するネットワークの実現に大いに貢献できるものと期待している。

最後に本特集の発行にあたり、貴重な研究成果をまとめ投稿頂いた執筆者の方々、御多忙の中貴重な時間を割いて厳正な査読を行って頂いた査読委員の方々、査読委員との調整、結果のとりまとめ、回答案の作成など精力的に行って頂いた編集委員各位、事務局として正確かつ迅速な事務処理を行って頂いた本会事務局奥村梨奈様に深謝の意を表します。

水野 修 (正員・シニア会員) 昭58東工大・工・電気・電子卒。昭60同大学院総合理工学研究所修士課程了。同年、日本電信電話(株)入社。平21より工学院大学、現在、同大教授。通信サービス開発支援技術、高度INシステム、IPサービスシステム、情報通信プラットフォーム技術の研究開発に従事。博士(国際情報通信学)。情報処理学会、電気学会、IEEE各会員。

人や社会と共生するシステムを実現するネットワークソフトウェア論文特集編集委員会

委員	長	水	野	修															
幹	事	末	田	欣	子	・	宮	本	大	輔									
委	員	伊	藤		篤	・	太	田	理	・	角	田	良	明	・	加	藤		圭
		北	形		元	・	中	村	光	宏	・	新	津	善	弘	・	三	宅	優
		若	原		恭														